

技術より人間性、 のびのび元気な野球部。

札幌静修高等学校野球部

昨年、創部14年目で初の全道大会出場。文武両道を実践し、定期テスト前には特別勉強会を実施。「ゆきあかり in 中島公園」のボランティア活動も行っています。

札幌静修高等学校

<http://www.sapporoseishu.ed.jp/>



元来女子校だった札幌静修高校に野球部が誕生したのは、共学になった2000年。2009年に、木無真人先生が監督に就任しました。「就任した当時は、髪の毛が長い子がいるようなチーム。野球部としては小規模なものでした」。そんな歴史の浅い野球部ですが、昨年の秋季大会で初めて北海道大会に出場。さらに、今年の春季大会でも北海道大会に出場し、全道初勝利を収めました。「重視しているのは、技術的なことばかりではなく人間性。野球だけではダメだと思っています。ぼくは甲子園や全道大会出場といった目標を定めたことはありません。部員たちの人間性が育てば、自分たちで目標を決め、勝利を求めようになる。彼らの自主性を大切にしています」と木無監督。練習を見ていると、部員たちは自分たちでキビキビ進めています。「彼らは、球、一点の重み、ギリギリの勝負をすることの楽しさを感じ始めていると思います」。甲子園へつながる夏の大会を前に、連日練習に励む野球部の面々。元気がよくて一生懸命のこのチーム、まちな野球部として応援しませんか？

「昼休み」みたいな バスケットで遊ぼう！

バスケットボールチーム LABiTZ

スポーツを通じて人との出会いをつくる社会人バスケットボールサークル。中央区などの小中学校体育館で活動しています。

<http://labitz.yangotonaki.com/index.html>



バスケットボールをやりたいけど、あるのは勝負に真剣なレベルの高いチームばかり。ならば「チームをつくっちゃえ」と、代表の中川さんはLABiTZを結成しました。「ぼくらがやっているのは、学校の昼休みみたいな遊びのチーム。年齢問わず、男女問わず、楽しむこと第一の仲間が集まっています」。メンバーは、20〜40代の50人ほど。高校や大学でのバスケット経験者もいれば、まったくの未経験者もいる。以前は大会に出たことがあったけど、いまは対外試合ゼロ、プレッシャーもゼロだと言います。「職場で知り合う人は、同業者、同年代の人ばかり。もつと新しい人と交流したいと思っていました。バスケットを通じて、いろんな人とのつながりができればいいなと思っています」と中川さん。バスケットに限らず、マラソン部、スノーボード部、ゲーム部、温泉部、飲み会部…と、チームの活動(?)はほとんど広がっているようです。「ぼくたちのバスケットはつながるきっかけ。転勤などで知り合いが少ない人の助けになりたいですね」。みなさんも一緒にどうですか？



美しく勝て！ たくましく育て！

藻岩山の緑を背に子どもたちがサッカーボールを追いかける。なかなか得点につながらない試合を監督が中断する。「自分のポジションの意味をよく考えてごらん」。監督の言葉をじつと聞き、子どもたちは再びピッチへ駆け出しに行く。監督の指示に頼るのではなく、自分で考えて動く。それが札幌中央フットボールクラブのスタイルだ。代表および監督の明(あきら)真希さんは3年前に脱サラして同クラブを立ち上げた。「試合に勝てる選手というより、その先の人生をたくましく生きていける人間を育てたい」という思いが根底にあった。だから保護者の介助は受けず、練習の準備から試合会場の設営まで子どもたちが自分で行う。地下鉄で移動中に「乗車マナーが悪い」と乗客からお叱りを受けたこともあったが、問題をチームで共有して反省する。それも常識ある大人になるための大切な学びだ。夏休みと冬休みには勉強会を行う。学校の宿題を完了できないと試合に出してもいけないから、互いに教えあつしながらなんとかやり遂げる。片付けをサボっている子がいれば仲間がたしなめ、体の小さな下級生を上級生がさりげなくフォローする。そんな経験の積み重ねが、相手を思いやり、自分で考えて行動する子どもを育てていく。他のクラブから移籍してきた少年が言った。「このチームは雰囲気がいからサッカーが楽しいんだ」。その目はきつと、勝ち負けを超えた大切な何かを見つめているはずだ。教え子たちがここで得た学びと人生の宝を次の世代へと受け継いで、心もサッカーも強いチームに育ってほしい。明監督はそう願う。「身を美しくすると書いて「躰」。美しく勝て！」のモットーをユニフォームの胸に刻み、都会育ちのサッカー少年少女たちは、今日もピッチを全力で駆ける。



札幌中央
フットボールクラブ

小学生男女を対象としたサッカーチーム。夏は北海道郵政研修センターグラウンド、冬は札幌医学技術福祉歯科専門学校体育館を拠点に、年間120試合以上を戦っています。

お問い合わせ:011-777-8887 E-mail:sapporochofu@yahoo.co.jp (事務受付センター)

<http://1sin.jp/myhp/sapporochofu>